



人間

人間 ニンゲン

二足歩行の哺乳類

雑食を好む

考えることで

生活の糧を確保

家族を持つ

社会的集団を持つ

自然から与えられる

新鮮な恵みに

感謝と慈愛を持ち

守護神を自然に

崇めて求めた

朝日の輝きに

一日の始まりを感謝して

大地に自生する木の実や野菜を

収穫して食べられることに

大地に感謝し

火を畏れて

糧を感謝して頂き

夕日に一日の終わりに

再び感謝するのです

日が沈み

月が昇ると

静かな夜のしじまにひれ伏し

流れ星に

何か予感を感じ

一日を終わるのです

平凡と思われる

単調な生活の繰り返し

自然はそれを覆すように

苦難と安らぎを与え

人々は更に絆を深め

社会を作り

集団で強固な生活で

自然と調和を図りました
喜怒哀樂のはげしい
自然の生きざまと
上手にかかわり
恵みを享受する傍ら
厳しく激しい怒りには
歯を食いしばって耐え
ひれ伏して崇め湛え
来るべき慈愛に満ちた世界に
希望と未来を祈りとして
万物の神々に捧げたのでしょうか
現代人は
科学が発展したが
自然はコントロールできない
ただ、破壊することは
出来るのです
それは、共存から別離
其れは、人類の終焉の
カウントダウン
神をも見放す所作
文明がこの自然を貪り
享樂を我が物顔の如く
飽食と殺戮
強欲と人心蹂躪
これらに
鉄槌を
全てを無に
願わくば
凡人には慈悲を
英知に希望を

神はサイコロはふられない

あのアインシュタイン博士が
量子力学に考察中だったか
こう言われたそうな
「神はサイコロはふられない」
神は、善と悪、正しいか間違いか
いやそれとも、信賞必罰なのか
明暗が
極めてはっきりしているのでは
灰色部分とか、まあまあいいんじゃないの
ぶれないのでしょうか。
全人類のために
創生された地球は
全人類に平等に
恵みを享受できるように
循環システムでバランスを
保っています。
巨大な企業が営利のみの
過度の追及をして
地球環境を汚染したり
損傷を与えたりしてた
やはり、鉄槌を下されます
福島は原発の汚染ありき
地震は原発に鉄槌をくだされたのでは
隠ぺいされた陰險なシステム
高額所得者が
無秩序な運営を強要し
収束の方法も見えない
これから20年はこの
厳しい苦悩のハードルを
越えなければ再建は困難では
いずれ、現場で作業する人達が
いなくなる
自己責任で社員が現場にでるしか
なくなる
関東地区の電力会社を新規創設

東電の使用可能な送電設備を
完全移行して
早期に電力不足解消してしまうこと
いま、すぐに対策すべきこと
再びの間違いが
ないことを祈る

これは、全世界のひとに
是非、分かって欲しい
地球を美しく
汚染なきすばらしい環境を
永遠に保つこと
これが宿命であり
人類の使命なのですから
神がかり的ですが
これは、真の人間の言葉
でしょうか

ガイア

「ガイア説は、
生物相と、海洋と、
地圏と、大気との
相互作用を考慮に入れた上で、
地球生理学あるいは
地球システム科学と呼ばれている」
私たちは
このガイアに見守られて
清らかに生きてきた
ガイアの自動調整機能が
やさしく暖かく包んでくれた
それが どうしたことか
いま、世界の原発は
汚染した物質を放出し続け
化学物質で海を汚染しています
更に、化石燃料の過激な燃焼が
大気を汚染し
二酸化炭素を放出して
ガイアの命綱であるオゾン層を侵食
ガイアは戸惑いました
人類が犯した
自然への仕打ち
自然への暴挙
自然の破壊と汚染
自然は戸惑い
自然は悲しみ
自然は驚愕して
そして深く修復不可能な
猜疑心が
今までの友好関係に
大きな亀裂は敵対意識を生んだ
自然は両極端に
感情をあらわにして
人類への報復を
少しずつ

少しづつ
始めた
時には
巨大なハリケーンを
また、巨大地震を
そして、巨大津波を
大干ばつ・大雨
大雪になだれ
尽きることのない
自然の報復
いま私たちは
自然への慈愛と敬愛を
そして
今までの過失を償うこと
これをこれから
幾年も続けて
偉大なる
ガイアに信頼と友好を
少しづつ
少しづつ近づこう
今すぐに
そうしないと
この地球号は
暗黒の混沌とした
希望も未来もない
消滅に突き進むのでしょうか
ひとり
ひとりが
身近なことから
自然への
いたわりと慈愛を
さあ はじめよう

望郷一ふるさと

望郷一心

ふるさと一古里

遊牧民には安住の

ふるさとはあるのか知らない

農耕民族も狩猟民族も

生まれ育った土地があった

生まれ育った風土や匂いは

そのことを克明に記憶に刻む

それは記憶の基盤であった

ふるさとは

しばらく出ても

捨てることは出来ない

土地がなくなっても

家がなくても

愛する人がいなくなっても

心のふるさとは

消えることがない

広島と長崎に

原子爆弾が落ちた時

多くの人のふるさとは

壊滅状態になりました

しかし、多くの人は

放射能の恐ろしさも

知らずに帰ってきました

ふるさとは

一番の拠り所なのです

絶対に忘れられないのです

福島原発のメルトダウンは

あなたは

いつ知りましたか

東電と政府が真実を

隠ぺいしていないか

そのために

全ての対応が

英断が出来なかったのでは

いま、私たちは
真実を求めて
福島の多くの人たちの
ふるさとを
取り戻さなくてはならない
汚染された地区の
半減期がいつなのか
安全と言っている
人達信じていいのか
真実を伝えて欲しい
そして
心の不安を安らげて
新たな出発を
みんなで支え合いながら
心強く
生きていこう
希望の明日を
信じて

想いは絵空事

想いは絵空事

私たちは

いつも想いを以って

生きています

それは

「人間は考える葦」と

パスカルの言葉

とにかく人間は考える

時には

思慮深く

時には

直観的に

更には

全く妄想ともいえる想い

それは

奇想天外な全方位的で

自由空間を

無差別に駆け巡る

そして

あたかも

感情移入された

生き物の如く

独り歩きをして

暴走がともらなくなる

それを受け止める

多くの別の思考する人達が

無視して通過させればいいものをつい

つい

受け入れたりして

同調し、怒り慄き

または

うれしくて喜んでしまう

悲しみにくれるのです

そう

感情が常に隣り合わせに

私たちの考え 想いは
拡散したり 収束したり
人間の行動の
原動力となって
集団を動かして
国をもかえる
時には
想いが妄想とか
非現実的な物語を創出します
それは理想であったり
過去の体験でもあるのです
これらは
芸術となったり
学問となったり
科学となったりする
無防備な絵空事が
明確な指標として
多くの人に
受け入れられる
そう
やはり人間は
考えて創造の所作を
生きるエネルギーの糧として
正しい方向を模索しながら
永遠の道程を
突き進むのでしょう
しかも
絵空事はいかにも
いかがわしい事
魑魅朦朧の不可解な
光が一点も見えない
漆黒の向こうに
いきなり広がる
広がる異空間のようで
未来と過去が交錯し
善悪と美醜も
疑心暗鬼も全く無視され
全てのことが

無表情に容認されてしまう

それでいい

絵空事だから

それが人間の持つ業

みたいなものだから

つらい現実からの

癒しなのかも

しっかりとした絆で

響き合って

行こう・・・と

闇の帝王との交信

闇の帝王との交信

闇の帝王からの声

突然のことで
私の心の準備ができていなく
ただびっくりしてしまった
睡魔に遭遇してから
思考回路が朦朧としかけた時
「おい」と独特の響きの低音で
私の頭脳に語りかけてきた
てっきり夢の中で
何だろうかなと
ぼんやりとした意識に
信号が走りました
「どうだ、きこえているか」
と再び声が聞こえる
誰だろう
もう眠いのに
「誰なの」
と思い切って聞いた
「おう、お目覚めかな」
「はあ??」
自分の問いにいきなりの反応に
内心ギクリとした。
夢ではないのです
「おまえは、俺の声が聞こえたか・・・」
と明確な声が響き渡った
「ああ、聞こえる」と言ってみた
「俺が誰だかわかるか」
地の底からはき出るような声
「知らん、知りません」と小さな声で答えた
「わはは、わしの姿は見ることは出来ない。しかし、
いつも時空の離れた場所からいつも監視しているのだ」
「それで誰なんですか？」と恐る恐る聞く
「闇の帝王だよ。君たちは光の中に生きているだろう

わたたちは、闇の中で生きている。」

「どうだ、今、光と闇は均衡している。

いい状態なんだろうが、これがもし狂ったら
どうなると思うか？」

しばらくの沈黙

私は、何がなんだかわからない

「全くわからないんですが・・・」

「うむ、やはりそうだろうよ。

過酷な環境や

闇と光の闘ぎ合いを知らんからな」

と闇の帝王は不満そうにつぶやいた。

「ところで、君は地球が滅亡することを
自覚したことはあるのかね。

いつまでも、平穏な生活がいとなまれると
思うなよ。

嵐、地震、雷、津波、洪水などの

天変地変は我々の怒りの産物でな。

もう、ギリギリの限界点にきているのだ
こうして、メッセージを受け取れる君は
幸運だな」とうす笑い気味に話した。

更に闇の帝王は続けて言った

「われわれは、光の側の悲しみや災難

そして憎悪、破壊、背信、ストレス

負の行動の全てが我々の闇の国の

エネルギーとして供給されて

我々は益々、パワーアップしていくのだ」

何ということだ

我々が悩み、悲しんでいることが

闇の糧となっているのか

信じがたい

「自然災害はお前らの仕業なのか？」

と私は意を決して聞いた

「なあに、自然はいつも我々が光の国に

災難を仕向けてパワー全開にしているが

神がそれを阻止しているが、

時として、

光の国の住人の悪行に目を覆うことが

多いと神も一瞬気を抜かれる、この時、

闇のパワーが光の国に降り注ぎ
嵐、ハリケーン、地震、津波、雷が荒れ狂うことになる
のだよ、そして、更に我々はエネルギーを享受出来ること
になるんだ。ウワワワたまらんぞ」

しかし、何ということか
自分の首を自分で締めているもんだと私は思った

闇の帝王は更に
「我々の闇がエネルギーが最大限になれば
この光の国つまり地球は闇の暗雲に包まれ
雷と嵐の日々が続くのだ、最高のエクスタシー
に我々は歓喜すであろうよ」と言って

「まあ、くれぐれも用心してな
頑張ってくれ、また、会おう
さらばじゃ」

闇の帝王は去って行った

勝手に来て

勝手に去って行った

闇の帝王よ、どうすれば
光の国を闇からの侵食を
逃れられるのか
教えてくれ・・・